

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	①作成日	令和 7 年 5 月 3 0 日	
②法人・団体名	特定非営利活動法人栃木県栃木県こども応援なないろ		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	栃木県宇都宮市		
④責任者氏名	皆川純子	(役職名等)	理事長
⑤担当者氏名	皆川純子	(役職名等)	理事長

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R06-019	⑦助成金額	5 0 万円	⑧申請カテゴリー	C
⑨奨学活動名	なないろこどもの学習支援事業				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	宇都宮市コミュニティ施設陽東地域コミュニティセンター 栃木県宇都宮市陽東 2 丁目 1 6 - 3 6				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

【活動の目的】 こどもの未来を創るお手伝いをする学習支援教室

【活動内容】 なないろ学習支援陽東教室（有料の塾に通っていない小学生から高校生を対象とした無料の学習教室）・毎週水曜日 18 時-20 時

【参加人数】 ⑫に記載

【活動成果】 生徒数 10 名登録（安定と増加）・中学 3 年生 2 名が希望校に合格・高校に進学をした生徒含め辞めた生徒が 1 人もいなかった

【購入した主な物品】 iPad、プリンター、プリンターインク、紙コップ、紙皿など

【活動から得られたもの】 支援員と子どもの信頼構築を重視・大学生支援員がミニキャリア教育を月 1 回程度実施したことで生徒の進路を決めることに役立った・社会福祉協議会の方が見学に来る、イベントに参加するなど地域との連携が深まった

【反省点】 学生支援員をメインに運営をしていたが、彼らは夏休みなどの学校休業期間に帰省してしまうため、支援員が足りない日があり、お休みになったことや先生 1 名体制となったことがあった

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A : 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	288	2	576	
高校生等	8	2	16	
大学生等	0	0	0	
学習支援員等	99	3	297	高校生・大学生
その他	33	4	132	見守り社会人
合 計			1,021	

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和6年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：なないろ学習支援陽東教室

法人・団体名：特定非営利活動法人栃木県栃木県こども応援なないろ

作成者 氏名：皆川純子

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

【目的】 貧困の連鎖を止められるのは教育でしかないという考えに基づき、有料の学習塾に通うことが難しい中学生を対象とした無料の学習支援教室を開校いたしました。魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えることを目的とし、運営しております。

【内容】 教室が借りられない日、祝祭日、天候悪化時、支援員不足時などを除き、毎週水曜日 18 時～20 時に陽東地域コミュニティセンターにて開催いたしました。

現在の生徒数は小学生・中学生・高校生 10 名で、月 1～2 名程度の新規の方より通塾希望のお問い合わせをいただいておりますが、学生ボランティア中心の運営体制であったため、安定的な支援提供とのバランスを考慮し、受け入れ人数の拡大には至りませんでした。

学習支援は、登録している 15 名の学生ボランティアのうち、毎回 1～5 名が交代で対応し、1～2 名の社会人見守りスタッフがサポートいたしました。

【参加人数】 小学生 2 名、中学 3 年生 3 名、中学 2 年生 4 名、高校 1 年生 1 名の計 10 名の生徒さんが毎週参加しております。その内 4 名は開校してから 2 年間継続して通ってくれております。

2. 実施した奨学活動の詳細

活動内容の詳細（写真や図表を用いてご説明ください。）

【参加人数】 様式 3-1⑫の通り

【周知方法や協力いただいた関係者】 陽東中学校・泉が丘中学校・鬼怒中学校・陽東地域コミュニティセンター・当会 Instagram

【地域やボランティア活動との連携】 陽東地域社会福祉協議会

【ボランティア募集協力】 宇都宮市社会福祉協議会ボランティアセンター・とちぎボランティア N P O センターばばら・宇都宮市まちづくりセンターまちぴあ

【学習支援員について】 様式 3-1⑫の通り

【購入した機材・物品の写真（助成表示用シールの貼付）】



【教室の様子】



3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

2024年度末（3月）をもって、陽東地域コミュニティセンターにて運営していた学習支援教室は一旦閉校いたしました。

これは当会のもう一つの中核事業である「食の支援活動」が、当初の週2回から週4回体制へと拡充されたことにより、人的・時間的リソースの最適な配分を見直す必要が生じたためです。

ただし、本事業を通じて築いてきた「学びに困難を抱える子どもたちへの支援」や、「信頼できる大人との出会いの場をつくる」という理念は変わらず、今後は学校内フリースクールなど、より柔軟かつ実態に即したかたちで、児童生徒への支援を継続してまいります。

今回の助成を通じて得られた支援ナレッジや人的ネットワークは、今後の支援事業の基盤となり、子どもたちの学びと居場所の選択肢を広げる取り組みに発展させていく予定です。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

① ミニキャリア教育：

学生支援員が「中学生時代の自分」「現在学んでいる分野」「将来の目標」などについて語る時間を月1回設け、身近なロールモデルとして生徒たちの将来像を広げる機会となっている。

② 学習支援員の循環：

大学生が生徒に「次は君が支援員になる番だね」と声をかけたところ、「僕にできるかな？」と笑顔で返してくれた場面があった。将来的に“教わる側”から“支える側”への循環が生まれつつある。

③ おやつ支援：

食の支援で余ったパンを教室で提供。学習支援員も含め全員で「せーの」で選ぶスタイルを取り入れ、自然な譲り合いや対話が生まれる場となっている。

④ 季節イベント：

助成金を活用し、ピザやお寿司、お菓子を取り入れたイベントを実施。生徒同士、支援員との交流が深まり、結果普段の学習支援時にも楽しくリラックスできる時間を提供することができ、それにより生徒が支援員に気軽に質問がしやすい環境が整った。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）